

市バスの運行効率性について

【資料3-1】

(1) 他都市と比較 (総務省令和3年度公営企業年鑑より)

	市面積※ (km ²)	営業キロ (km)	運転系統数	一日平均乗車人員	市人口※
仙台市	786.35	563.0	232	81,241人	109万人
川崎市	144.35	199.1	177	111,222人	153万人
横浜市	438.01	516.3	141	289,619人	377万人
名古屋市	326.50	768.7	163	278,225人	232万人
京都市	827.83	321.9	74	267,630人	144万人
神戸市	557.03	378.0	87	141,460人	150万人

※市面積、人口はHP等調べ (R4)

※政令市の公営バス事業者のうち、東京都、北九州市 (車両数が少なく小規模) を除く

◆仙台市の特徴

- ・ 営業キロは長く、広い市域をカバーするように営業路線が張り巡らされている
- ・ 市街地を走る鉄道が地下鉄を除いて無いため、私鉄等がある他都市と一概に比較できないものの、未だ、地下鉄とのフィーダー化が行われていない路線やルートが重複するような路線も多いことから、運転系統数が非常に多い
- ・ 一方で一日平均乗車人員は少ない

⇒ 幅広い運行経路で走っているにもかかわらず、お客さまは乗っていない、効率の悪い状況

(2) 令和3年度営業係数

令和3年度の市バス各路線の営業係数（100円の収入を得るための経費。100を超えると赤字）

路線名	営業係数
1 秋保・二口線	619
2 余目線	1,397
3 泉ビレジ線	130
4 井土浜線	189
5 芋沢線	201
6 岩切線	194
7 大沢線	223
8 沖野線	158
9 折立・茂庭台線	157
10 卸町線	309
11 貝ヶ森団地線	147
12 蒲生線	234

路線名	営業係数
13 北山・子平町線	171
14 恵和町線	187
15 工学部・宮教大線	453
16 交通公園線	214
17 作並線	178
18 桜ヶ丘線	124
19 定義線	211
20 四郎丸線	228
21 住吉台線	182
22 高砂線	227
23 高松・安養寺線	236
24 長命ヶ丘線	143

路線名	営業係数
25 鶴ヶ谷・南光台線	154
26 東部工場団地線	354
27 動物公園線	172
28 長町線	572
29 中山・川平線	142
30 七北田線	194
31 西の平線	176
32 根白石線	392
33 東黒松線	1,374
34 東仙台営業所線	180
35 深沼線	579
36 福田町四丁目線	531

路線名	営業係数
37 緑ヶ丘線	187
38 南小泉線	229
39 南吉成線	148
40 瞑想の松線	186
41 八木山南団地線	204
42 野草園線	223
43 大和町線	558
44 六丁の目・岡田線	235

※路線は五十音順

(参考) 他都市公営バス事業者の営業係数比較

都市名	R3営業係数 (全路線)	全路線(又は全系統)のうち 営業係数200以上の割合
川崎市	1 2 2.9	3.6% (1路線/28路線)
横浜市	1 1 4.7	15.5% (22系統/142系統)
名古屋市	1 4 0	24.8% (40系統/161系統)
京都市	1 3 1	21.6% (16系統/74系統)
神戸市	1 2 8	27.9% (24系統/86系統)
仙台市	1 8 0	52.3% (23路線/44路線)

市バスは、新型コロナウイルス感染症の影響以前から、

全線が赤字となる状況が継続

⇒現計画の前身である「仙台市自動車運送事業経営改善計画（H29～33）」の取組みにより、令和元年度に桜ヶ丘線のみ黒字化したものの、コロナ禍で令和2年度に再度全線赤字。

新型コロナの影響が継続し、回復傾向にはあるものの、令和3年度も全路線で赤字。

全路線の平均値は180（参考：令和2年度は193）